

# AICHI PROJECT DOCUMENT

会場 | 中央広小路ビル  
会期 | 2013年8月10日-10月27日

## VOLUME

PM  
パブリック・  
ミーティング

[www.facebook.com/apj2013](http://www.facebook.com/apj2013)

PM#1

8/10[土]  
13:00-  
15:00

中央  
広小路  
ビル

期間a | 2013.8.10-8.24  
外形とボリュームのスタディ

PM#2

8/24[土]  
14:00-  
16:00

中央  
広小路  
ビル

期間b | 2013.8.24-9.8  
床面積とプログラムのスタディ

PM#3

9/8[日]  
14:00-  
16:00

中央  
広小路  
ビル

期間c | 2013.9.8-9.21  
床面積とプログラムのスタディ

PM#4

9/21[土]  
16:00-  
18:00

愛知県  
芸術文化  
センター  
12階  
アート  
スペースE

期間d | 2013.9.21-10.6  
床面積とプログラムのスタディ

FINAL

10/6[日]  
16:00-  
18:00  
愛知県芸術文化  
センター12階  
アートスペースE

マスター・アーキテクト

藤村龍至:建築家/東洋大学専任講師

ドキュメンテーター | 山崎泰寛

コーディネーター | 森田恭平

アシスタント

伊藤啓輔、武智大祐、小笠原一穂

キュレーター | 柴田直美

芸術監督 | 五十嵐太郎

チーフ・アーキテクト

[チームH]

平井仁康:名古屋工業大学大学院1年生

[チームM]

村山明宏:名古屋工業大学大学院1年生

期間b | デザイナー

社本実咲:法政大学大学院1年生

藤田恭輔:名城大学3年生

新海周平:名城大学3年生

吉田沙耶香:柏原学園大学2年生

加藤正都:名古屋工業大学3年生

片山優樹:東京理科大学3年生

三宅航平:名古屋工業大学3年生



左から、三宅、片山、加藤、吉田、社本、藤田、新海

州庁舎と都庁舎に  
要求される機能や  
役割を手がかりに  
ボリュームを検討する

「あいちプロジェクト」とは?

道州制の導入をにらんで

「中京都府庁舎」と「東海州府庁舎」の

デザイン作業を行なうプロジェクト。

展示会場でデザイナーが

模型を制作するセッションと

来場者による投票を繰り返して

設計を進める。

異なるテーマを持つ2つのチームを

つくるて庁舎の模型を制作し、来場者が

両チームの作業内容を見比べた上で、

どちらのチームの案が良いかを投票する。

チームはその結果を見ながら、

さらに案を発展させていく、

ワークインプログレス型の作品である。

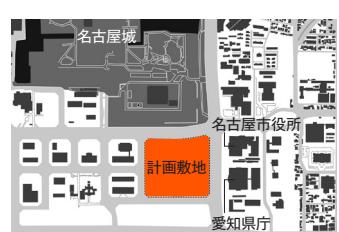
今回は名古屋工業大学の大学院生の

ふたりが2つのチームを指揮する

「チーフ・アーキテクト」を務め、

デザイナーは東海地方を中心に

全国から集った学生が担う。



周辺との位置関係を示した配置図。4つの区画を使って「中京都府庁舎」と「東海州府庁舎」を設計する

【あいちプロジェクトドキュメント】

## 日本の将来像を描く 床面積とプログラムのスタディ

「あいちプロジェクト」は第2期間に突入した。

この作品の要点は、

プロジェクトの期間を区切った上で、

デザイナーを入れ替え、リフレッシュすることにある。

ゆえに模型の制作から展示に至る細部まで、

すべてを「引き継ぐ」ことになる。

デザイナーである学生は困惑しながらも、

その戸惑い自体がプロジェクト全体に躍動感を与えもする。

第2期間=期間bの参加者が取り組んだのは、

2つの庁舎に必要なプログラムを検討し、

模型に盛り込むことだ。

山崎泰寛「あいちプロジェクトドキュメンテーター:編集者、建築メディア史研究】

# INTERVIEW

## 期間bデザイナーへのインタビュー

### コミュニケーションと作品

#### 使い手との対話

——お疲れさまでした。まず、期間bを通じて得たものを教えて下さい。

**加藤** | もともと集団設計に対する振る舞いを学びたかったんです。自分の意見を出していくよりも、みんなに自分の考えを受け入れてもらうことが大事だと思いました。2週間前よりは人として柔らかくなつたのではないかと思います(笑)。

**新海** | 僕は自分を表現するのが上手くなかった。人に対する表現の仕方、アートとしての表現を学びました。「あいち」は、設計段階をオープンにすることで成立するアート。緊張している状態で設計ができたのはいい経験でした。

**吉田** | 私は学校教育と建築を結ぶのが参加した動機で、今回は自分でどう動けばいいのかを学びました。来場者の意見との関係について考えさせられました。ナマの声だからです。投票の中に、「未来に生きる子どもが良いと言った案に入れました」というコメントがあった。親目線。自分のことを自分の言葉で語れるようになったかなと思います。

**社本** | 建築のあり方、社会との関わりについて考えた時間になりました。以前大学で集合住宅のスタディをしていた時に、「もし仮にこの建築が建った時に、私が考えた思いが通じるのか」と不安でした。「あいちPJ」では、大学ではできないことができた。社会に出て建築を建てる前にできたのは大きな財産です。建築の社会性を学びました。

**片山** | 期間をまたいで設計するプロセス

を体験できました。大学の課題では、アタマに浮かんだアイデアを結びつけることができませんでしたが、設計に必要な要素のバランスを取れるようになつたと思う。M008案は突飛なアイデアでしたが(笑)。

**三宅** | 建築家がどう社会に関わるかを学ぼうとしていたが、その気持は2週間で変化しました。最初は、アートの場を借りていることがどう影響しているかに关心があつたが、だんだん、モノをつくったときの考えを来場者に伝えられるかどうかは、結局どれだけ形になつてているかといふことなんだなと。設計がコミュニケーションツールになるということを学びました。

**藤田** | 僕はもともとPMを体験したいと思っていました。普段は建築方面からの指摘を受けることが多いですが、このPJではいろいろな視点から意見を得られたことが新鮮でした。ある時「敷地の周囲の水道会社とかのこと考えてる?」と来場者に言われてはつとしました。今回、自分たちなりに丁寧に説明することはできたのではと思っています。うまく人に伝える、ということに興味をもつて参加したので、実際に話してみると、いろいろ違う視点を得ることになりました。あいちトリエンナーレでやる意味は何だろうと考えました。

**吉田** | 「あいち」は使い手である来場者の顔を見ながら作れるプロジェクト。『建築をつくることは未来をつくること』という書籍があるが、それをコメントを通じて実感できたと思います。

——期間aから意識的に引き継いだことはありますか?

**加藤** | M案における名古屋城への抜けです。それを自分たちで「45度線」と言いかえたことで、抽象化できたと思います。

**三宅** | 周辺環境をテーマにしたM案で、線に対する案が見えてきた。丘の形を大事にしたいと思いました。

#### 案を決定づける瞬間

——では、印象

にのこつた案を教えてください。

**加藤** | M006案です。実は、残したい自分のアイデアを最初に示せた案。自己主張の仕方を実感できました。二重の軸線を意識したMは周辺の環境に応じた形だが、Hは4つのブロックの関係を中心できあがつたボリュームです。

**新海** | M008案。007案から形態が大きく変わつた。道州制、州都のあり方を艦型。地方分権をどうあるべきかを反映された。それまでは州は大きく都は小さかつたんだけど、その案で都が大きくなつて、州と都がボリュームを一対一にして、地方分権を表現できました。

**吉田** | M007案。ここまでで、このチームに必要な要素が全部揃つたからです。MはHに比べて形態の変化が激しいんですが、007まで要素が全部揃いました。

**社本** | M008案。008の時に道州制と都構想を2:3だと思っていたが、1:1にしました。州庁舎と都庁舎の関係が自分の中で明らかになりました。

**片山** | M007案。駅の出口からのアプローチや視線を念頭において検討していたが、どこが州庁舎なのか、都庁舎なのかがあいまいだったが、007案からはつきりした。006案の段階では、方向性が決まっていませんでした。期間bの方向性がはつきりした案です。

**三宅** | 伝えることが重要だと気づいたが、フィードバックの重要性を知ったのはH006案。その頃はそれまでの筋の通つた設計と自分の個性のバランスが取れていなかつた。H案はスタジアム型が全体の筋だつたんだけど、無視してしまつた。

**藤田** | M007案。M案の局面と、人を流すということ。うちと外を滑らかにつなげる要素だと思った。自分の考えた局面を入れてコントロール出来た。人の動線として曲線がつくれる点でM案の方が好きでした。

——来場者のアンケートはいかがでしたか?

**加藤** | 光が入つたほうがいいとか、シンプルに持よさをイメージしているところがあつて、建築的なことにこだわつていることに、投票用紙みて、そういう反応を意識しながら進められた。

**吉田** | 来場者はより現実的。現実との兼ね合い、建つということを意識させられた。

**社本** | M案の開票をしていると、Mは女

性、Hは男性が多かつた気がする。Mは光の入り方など、ソフトな面での言及が多かつたと思います。

——期間bのデザイナー同士で議論して、はつとした意見はありましたか?

**加藤** | 同じ大学で考え方が似ていることがありましたね。カラーがあるのかなと。

**社本** | ボリュームから考えたことがなかつた。外観から考えて言葉にするのが難しかつたです。

**吉田** | どういう案が良いのかと議論する時に、理論的にコレがいいと男性陣に言わされた。女子大で設計を学んでいると、そこでは感覚的に話しがちかも。

**加藤** | 吉田さんは感覚的であると同時に、人に対して優しい。それが方針に沿つていた時には気持ちの良いシーンが見えてきて、案に色合いがついた。

**新海** | H006案で片山くんが壁を多用した案を持ってきたんですが、それが軸を意識した案でした。H案が持つていていた重厚さがなくなつて、軽くなりました。

——期間cに引き継ぎたいことはありますか?

**藤田** | 展示方法をうまく考えてほしい。僕たちは横断歩道をつけたりしましたが、抽象度を上げつつ、わかりやすくしたいと考えていました。

**片山** | 来場者の方とのコミュニケーション。運営方法について期間cも意識してほしい。

——来場者の空気を形にできたと思いますか?

**加藤** | 自分が生きる場所にもかかわらず、市民の建築への意識は高くないと感じています。自分たちで考えていくことになるので、この方法だともっと明るくなつていいだろうと思います。

#### 民主的かつ差を際立たせる方法論

——チーフのお2人と、マスターアーキテクトの感想もお聞かせください。

**平井** [チームHチーフ] | 今後の公共建築はこうやって設計していくべきだと思います。これまでプロの人がやっていた分スムーズになつていたことが、民主的になるにつれて市民とプロの兼ね合いが重要になつてくると思います。期間aでは、フィードバックを行うこと、何を新しく組み込む要素とするか、そして次に何を引き継ぐかが大事だと思っていました。期間bを終えて、デザイナー各個人の個性を設計に反



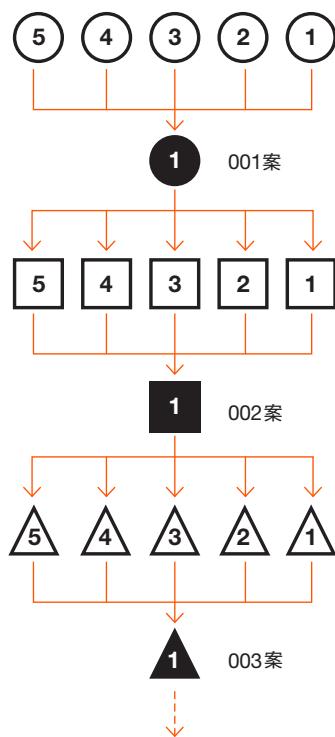
9月8日の第3回パブリックミーティング\*

# THEME 床面積とプログラム

異なるテーマを持った2つの傾倒の模型を制作し、来場者に投票を求める。1/2000の小さな模型で複数のアイデアを出し、それらの中から特徴を取り出して反映させた1/500の模型をつくる。期間aでは005案まで完成したので、期間bの模型は006から始まっている。

## 分節と統合のダイアグラム

案の制作は、東海地方を中心に全国各地から集まった学生デザイナーがあたる。彼らは2チーム（チームH、チームM）に分かれて案を競作し、来場者の投票による評価をもとにプラスチックアップさせる。テーマに添って5人が制作した案を1つの案にまとめ（統合）、その成果を踏まえてさらに5人それぞれが案を更新する（分節）。「あいちプロジェクト」では、分節と統合のプロセスを繰り返すことで、より濃密で説得力のある設計案を示すことになる。



映させようとしたが、難しかった。期間cでもこの問い合わせ考えて行きたいと思います。

**村山【チームMチーフ】** | こここのビルに入居されている会社員の方に説明してみたところ、投票制について好意的な反応がありました。それは市民が求めていることもあります。期間bでは「共有」をキーワードにしていました。情報に基づいて個人的な解釈を、デザイナーに共有していくことを意識しました。

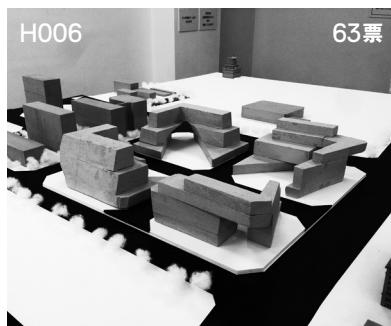
**藤村【マスターーアーキテクト】** | 民主的かつ差を際立たせる方法論というのは、世界的にも試みられていません。現実ではいきなりできることではないので、トリエンナーレアート作品として取り組むことに意義があります。

[聞き手：山崎泰寛]

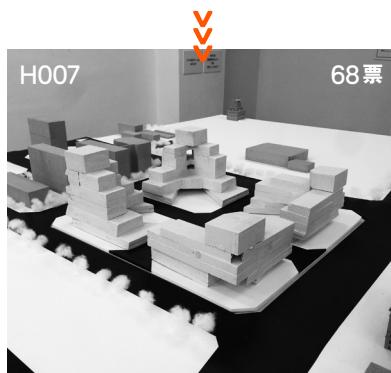
# TEAM H

## 【内部に人を集めする建築】

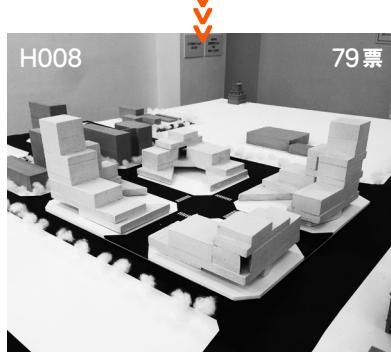
床面積を満たすために高層化させ、配置を検討する。市民の動線を駅から斜めに伸ばし、州と都の議会を直行させる。4つのブロックの中で建築の形態が決まる自律性の高い提案として成熟してきた。



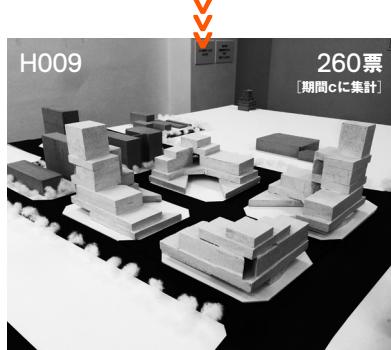
H006 シンボルのゲートを広げて広場を強調



H007 広場中心の縦割りゾーニングにより広場のシンボル性が上がったが評判は悪かった



H008 タワーの位置を変更し、名古屋城に向かって開くこととした

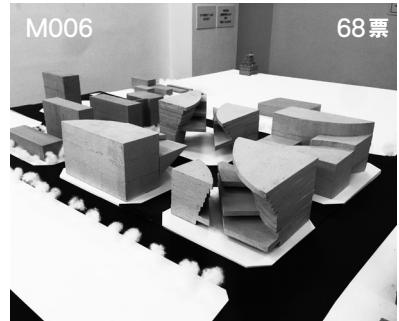


H009 外壁を斜めにすることで敷地外からのアプローチに対してランドマークとして自立した

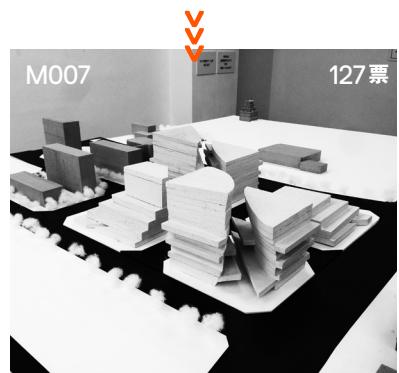
# TEAM M

## 【外部から人が流れる建築】

名古屋城の方向に伸びる45度の軸線で都庁と州庁を分けた。面積比を1:1に固定し、利用頻度に応じたゾーニングを行う。駅から議会を通じて中心部に入る市民の動線を設け、そこからの視線を受け止めるシンボリックな建物を州庁舎に当てた。



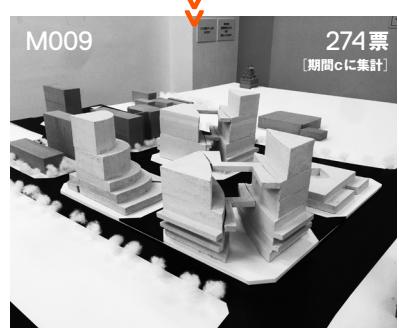
M006 名古屋城への軸線に沿って建物を分割することにより軸線で州庁と都庁を対面させた



M007 議会や市民の利用する場、役所の位置を45度軸に対して対称に配置することで人の動線が確立した



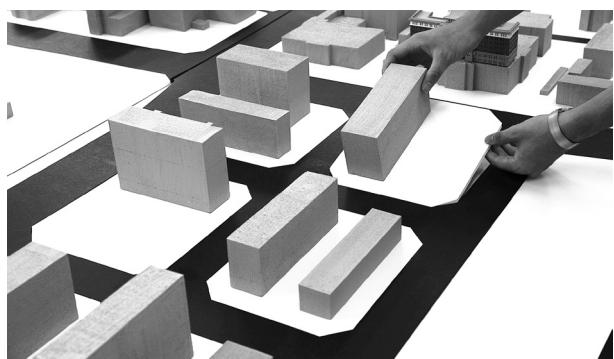
M008 45度軸に沿わない2つのボリュームに議会を配置することで、都庁と州庁のシンボル性が確立された



M009 リニア導入による東京・名古屋・大阪のつながりと東海州6県のシンボルとしての当庁舎のランドマーク性をつくる

August	01
	02
	03
	04
	05
	06
	07
	08
	09
PM#1	10
	11
	12
	13
001 ● 14	14
002 ● 15	15
	16
	17
003 ● 18	18
	19
	20
004 ● 21	21
	22
005 ● 23	23
PM#2	24
	25
	26
	27
	28
006 ● 29	29
	30
007 ● 31	31
September	01
	02
	03
	04
008 ● 05	05
	06
009 ● 07	07
PM#3	08
	09
	10
	11
	12
	13
	14
	15
	16
	17
	18
	19
	20
PM#4	21
	22
	23
	24
	25
	26
	27
	28
	29
	30
October	01
	02
	03
	04
	05
FINAL	06
	07
	08
	09

## あいちプロジェクト期間b作業風景



1/500スケールの敷地模型\*



チーフを中心に案の方向性を決定する\*



集合写真をキメる

	総得票数	H案	M案	その他
期間a[8/14-8/23]	734票	355票	309票	70票
期間b[8/24-9/8]	964票	437票	442票	85票
合計	1698票	792票	751票	155票

変化に富んだM案の形状とコンセプトが一致して、評価を受けた?!

## INTERVIEW

### 期間cデザイナーへのインタビュー

#### プロジェクトの継続性を設計に生かす

永曾あづみ: 桧山女子学園大学大学院1年生  
桂川大: 名古屋工業大学大学院1年生  
鈴木里美: 桧山女子学園大学3年生  
長屋汐美: 信州大学3年生  
錢龜夏彦: 名古屋大学4年生  
上野友子: 愛知淑徳大学3年生  
長屋美咲: 名城大学2年生

鶴ヶ島や大宮東口から「あいち」へ  
—プロジェクトに参加するきっかけは?

錢龜 | 去年名大で開かれた藤村さんの講演会で、鶴ヶ島PJのことを知りました。6月のトークイベントで、これはやってみるしかないと思って参加しました。

鈴木 | 私も去年の秋の名大の藤村さんの講演会で知りました。その時に、講演会ってこんなに面白いんだと(笑)。

桂川 | 僕はUIAの講演会で藤村さんを知り、その後鶴ヶ島PJや大宮PJを知つて、参加しようと思いました。自分自身は名古屋に来たばかりで、まだ土地勘もないんですが。

永曾 | もともと鶴ヶ島PJで興味を持っていて、PMを繰り返しながら設計していくことに憧れがあったのがきっかけです。

#### 情報を取捨選択できるか

—今日のPM見てどう思いましたか?

上野 | 今まで大人数で発表した経験がないので、2週間後にあの場にいるのかと思うと不安が大きいです。

長屋汐 | 私もあんなに語れるのかと不安になりました。チームとしても、来場者との間でも、コミュニケーションを取りながら設計することの重要性を感じました。

長屋美 | チームや来場者の声を聞く中で、自分の考えを出していけるのが不安になりました。でも、コミュニケーションを取るすごく楽しみです。

錢龜 | 模型の数に圧倒されました。そこからの読み取りと、来場者への伝え方が難しそうです。また、大学ではプレゼンテーションの練習にあまり時間を割かないので、それも楽しみですね。

鈴木 | 私も大学ではあまりプレゼンしてこなかったので、その方法を考えたい。伝えたいことが頭の中で整理できていれば、初めて聞く人にもずっと入ってくると思いました。

桂川 | 情報を読み取るのは個人的なことですが、情報を取捨選択して共有していくという話に関心を持ちました。

永曾 | 「あいち」はたくさんの人が関わって設計するPJで、しかも来場者の声も入る、進行中のPJです。案が発展していくことを観客も感じられるというのはトレンナーレ全体でも珍しい。あるアート作品を一ヶ月間手伝った時は、観客にはプロセスは関係ないと言われました。建築についても、今はどう使うかしか評価軸がありませんが、来場者にとっても、意見が建築に反映されたことを感じられる

ので、面白いのではないかと思います。

#### コンセプトと形を一致させられるか

—H案とM案で、どんな印象を持ちましたか?

上野 | 形状が好きなのはM案ですが、考え方H008案が面白いと思います。H案の議会では、市民にとって議会がピラミッドみたいに遠い存在に見える。M案はその点、ソフト面が考えられていると思いました。

長屋汐 | 周辺の自然や名古屋城を手がかりにしたM案が、周囲への理解が深いと思いました。

長屋美 | Facebookでは、中央に立った時に人の交わりが想像できるH案が良いと思っています。でもそれは中に立たないと、かえって閉鎖的になる。M案は地下鉄から出てきた時の全体の形が考えられていて、親しみやすそうです。

錢龜 | 会場で模型をアイレベルで覗くとM案がいいと思いました。中庭や外部空間をどう作れるのか楽しみです。

鈴木 | H案です。M案はかえって圧迫感がありそうです。

桂川 | H案は素材感を考えやすくて入り込めそう。M案は建物の内部がイメージしづらいかと。

永曾 | 配置が変わってスッキリしたH008案が一番良かった。でもコンセプトや作り方は、M案の方が好きです。ただ、なぜそのコンセプトでこのボリュームになるのかと疑問もあった。期間cを通じて考えて行きたいと思います。

[聞き手: 山崎泰寛]